

発行130年！アメリカ戦前記念切手の
変遷とその魅力 [文・小林 伸佳] 2

カラー連載

わたしの大好きな切手⑥	
ペンギンを描いた普通切手(50サンチーム)	
福井 和雄さん(京都府).....	1
郵趣風土記～マテリアルでたどる地域郵便史～⑭ [板橋 祐己]	
北都留郡・初特局と明治四十年水害.....	8
カラーで見る郵趣百科事典⑥ [魚木 五夫]	
郵趣用語②「ルレット」「着色ルレット」.....	10
新連載 リーフづくりの凄ワザ！① [山田 廉一]	
二重座布団に代わるワザ.....	12
押さえておきたい“日本切手の壺”⑩ [山口 充]	
穿孔切手.....	16

注目の新刊

『続・切手もの知りBook—もっと収集を楽しむ40話—』.....	14
-----------------------------------	----

トピック

戦時下における ウクライナの切手発行戦略.....	22
ワールド・トピック ホノルルの郵便事情 [友田 淳治].....	36

連載

著名人の手紙 ⑬⑭ [新垣 千尋]	
小説家 山岡荘八.....	31
郵趣家の書斎 ～さまざまな切手収集の楽しみを訪ねて⑥ [佐伯 幸一]	
今井恵子さん	
～切手収集を母から娘へ継承～.....	32
切手女子流“切手の楽しみ方”⑥ [ばば ちえ]	
ポストクロッシングのミートアップを開催.....	34
サラリーマン収集家によるコレクションづくり奮闘記⑤ [姉川 義治]	
自己流アルバムリーフの作成.....	38
全国支部に見る支部活性化のノウハウ③	
川越支部(埼玉県).....	39
季節とともに楽しむ 風景印歳時記⑥	
6月/水無月.....	40

丸ごと！世界新切手ニュース(65ヵ国976種を掲載)

編集部おススメ！話題の新切手から ⑬⑭.....	49
ワールド スタンプ ナウ ⑫⑬ [楢山 哲太郎]	
キルギスは郵便の“一国二制度”.....	50
『ビジュアル版』(図版ページ).....	52
『テキスト版』(解説ページ).....	65

情報・コミュニケーション

6月のイベント・スケジュール.....	18
日本新切手ニュース：「夏のグリーティング」海のいきものシリーズ第7集.....	20
郵趣の目・国内情報：10月1日より特殊取扱料や国際郵便料金など値上げほか.....	25
郵趣の目・海外情報：英切手・国家元首シルエット“最後”と“最初”発行ほか.....	27
切手の博物館ニュース：「エリザベス女王の生涯」展ほか.....	29
BOOKS：「手彫切手 太田克己コレクション」「切手で読み解く地図の世界」.....	41
読者のページ おたより喫茶室.....	42

協会事業のページ

全国郵趣大会2023 in 札幌 開催案内.....	75
ゆうびん de 自由研究・作品コンテスト2023 案内.....	76
STAMP-SHOW2023受賞一覧.....	77
研究会一覧/研究会・支部定例会.....	78
「全国ミニ切手展」開催報告呼びかけ/開催録/次号予告ほか.....	79
公益財団法人日本郵趣協会のご案内.....	80

巻頭言

非郵趣マテリアルの楽しみ方

審査や選考がある多くの切手展作品では、切手や官製はがきなどの郵趣マテリアルを使うことが基本ですが、JAPEXのオープンクラス、STAMP-SHOWのフリースタイル切手展などでは、非郵趣マテリアルも使うことができます。

4月に開催されたSTAMP-SHOW2023では、企画展示「世界の王室切手展」に出品しました。企画展示には非郵趣マテリアルに関する規制がないので、多くの非郵趣マテリアルを使うことができました。私には初めての経験で、そこには楽しさと難しさがあることに気づきました。

作品は、英国4国王の時代(1901-1952)の切手の展示で、作品に当時の絵葉書や報道写真などを加えることで、一般の方にもわかりやすい展示を目指しました。王室の戴冠式や祭事、国王の崩御などは多くの絵葉書や報道写真が残されていて、ネットオークションで容易に入手できます。作品の構想を練り、図版として使えるものを入手しながら作品を完成させていきました。

しかし、当然あるだろうと思っていた図柄の絵葉書が見つからずに作品構想を変更せざるを得ないことがあったり、逆に思いもよらぬ非郵趣マテリアルが見つかり作品の構想を練り直したりもしました。このようにして作った作品は、郵趣品のみの作品とは異なり、より多くの方に伝わりやすい展示になったと思います。

作品の構想に合った非郵趣マテリアルを探し出し、作品に広がりを持たせる作業は、難しい面もありましたが、楽しくもありました。新たな郵趣の楽しみを知ることができました。

JPS理事長 山田 廉一



表紙の切手より

ジュール・ベルヌの小説「八十日間世界一周」(1873)では、紳士フォッグと執事バスバルトゥーが、ロンドンから世界一周の旅に出ます。鉄道や蒸気船でスエズ運河、横浜、アメリカなどを経由し、幾多の困難を切り抜けて約束の日時にロンドンへ帰着。オルダーニー島の小型シート(52・65㌘)は、2人の背景にその道筋を示す世界地図を描いています。